異常豚通報事例と暑熱期における豚熱防疫対応の課題検討：岡山県高梁家保　森眞理子、西淳子

令和６年８月、肥育豚（約110日齢）が急性の死亡、発熱、元気消失等を呈したため管内農場から家保に通報。異常豚通報として関係機関に連絡後、当農場に移動自粛を要請し立入検査を実施。家保の血液検査で白血球数減少無し、好中球の核の左方移動無し、Ht値・Na・Clが上昇し極度の脱水が示唆。病性鑑定課のPCR検査で10頭中１頭の扁桃がワクチン株陽性、他全て陰性のため豚熱を否定。且つ発症豚房の飲水設備の不具合が判明し、飲水量不足による熱中症と診断。今回の立入検査において、酷暑下での現場の検査及び調査等は家保職員であってもその作業性が顕著に低下。そのため防疫作業に不慣れな一般動員者の暑熱対策として作業時間帯やシフト短縮等の計画変更の必要性が浮上。後日、暑熱期における課題を所内で整理し、口蹄疫等検討部会で共有・検討。暑熱期の豚熱防疫対応の基本的な考えが整理されたものの、引き続き検討を要する課題が多く、今後も継続協議していく必要がある。